

はじめに…………… 8

## 序章 生きることと働くこと

生きてるって 14／働くって 15

第1話…………… 16

## 第1章 価値があるってどういうこと？

だれにとつての価値？ 24／生きていける場所を増やす 25

第1話…………… 26

(聞いてみました)

仕事中は「格下の市民」になると思っていた…………… 37

## 第2章 誰にでも自尊心はある

「働く人」ってどんなイメージ？ 42／働いている時って… 43

第1話…………… 44

第2話…………… 49

本当にお金さえもらえればいいの？ 53

(聞いてみました)

人を大切にできない職場のつらさ…………… 55

第3話…………… 57

(聞いてみました)

多重下請け構造の中で…………… 61

第4話…………… 63

(聞いてみました)

やってみようと思ったと思える仕事…………… 70

## 第3章 しくじったら即アウトの社会なんて

こんなにガンバっているのに!! 78

第1話…………… 80

(聞いてみました)

働くこと、働かないこと…………… 98

会社ってなんなの？ 101／雇う側のモンスター 103／働いてると充実する 104

## 第4章 仲間をつくる

問題がある 106 / きっかけ 107

第1話 ..... 118 108

第2話 ..... 118 108

(聞いてみました)

場をつくる ..... 124

「対価」をもらうこと / もらわないこと ..... 126

友達ができた時 エピソード集 ..... 131

労働組合を使おう 134

## 第5章 無力なんかじゃない

第1話 ..... 136

第2話 ..... 141

第3話 ..... 148

おわりに ..... 154

# 序章

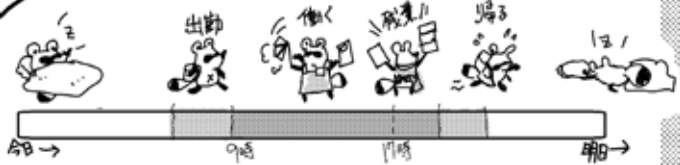
## 生きるということ

## 働くこと



働くって...

1日の中でたくさん時間を  
"働くため"に使う



"働く"で生活環境を  
作るって...



生きてるって...

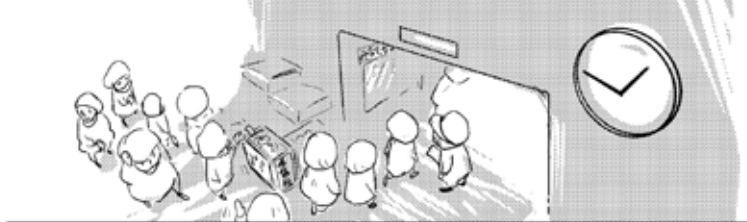
働く

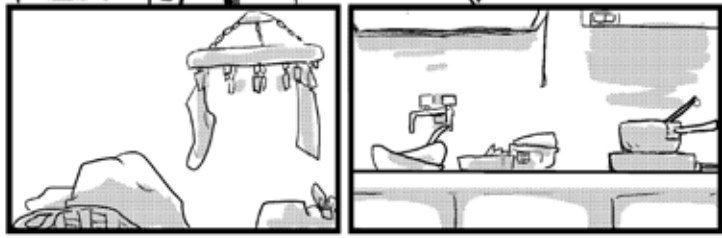


第1話

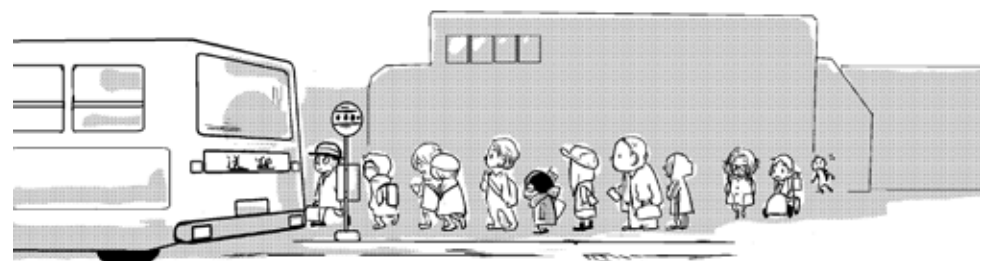


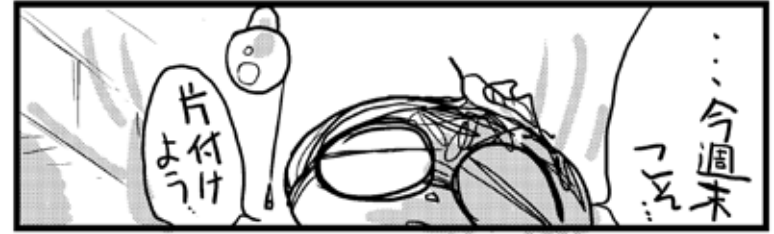
ウチは  
生きてくために  
働かなきゃならない





カチカチユソリ





稼いで  
帰って  
眠るだけ



# 第1章

価値があるって  
どういうこと？



コーンさん  
伝わるもの  
うけるものも  
職業訓練に  
入ってる。



トマトさん  
コーンさんを  
手伝ってる人だけ。  
さんぽが好き。



おもしろさん  
せりりんとかの  
生活を手伝う人だけの  
仕事をしている。  
ちびでわりメランゴリー



せりりん  
体が動まにくいので  
ヘルパーとずかかして  
いろいろある。  
プログラマー



たまに

労働力として

生かされているだけ

なのかと

思ったりする





# 第1話





そうなんだけどね



そっか  
…いつでも  
戻ってきてね



「戻ってきてね…」  
ウチは  
誰かに言って  
もらえるだろうか



## 「格下の市民」になるかと思っていた ▼ヘルパーを辞めかけているO野さん

学生時代、接客のアルバイトをやっていた。お客さんがいれば、たとえ倒れそうでも水を飲むこともできず、暴言を吐かれても、笑顔。こちらが言い返せないのを知っていて八つ当たりしてくるお客さんもいる。一つ一つは浅い傷でもだんだん深くなっていった。

仕事している時間は「格下の市民」になると思っていた。人権は一時棚上げ。本当はそれは間違っている、仕事中でも人権はあるという。でもそんな扱いは受けてこなかった。驚きだ。多くの現場で、雇う側と雇われる側、お金を支払う側と受け取る側が、人として平等ではなくなっていると思う。雇われる側は、生活がかかっている状態で「お前の代わりはいくらでもいる」と言われながら働く。ハラスメントがあっても文句は言えず、改善の道もわからない。「苦勞は美しい」といっような美辞に、肯定感を得て働き続ける。働き続けている人たちは苦勞に耐えたことが誇りだ。だから、誰かが「こんな現場はおかしい」と言ったとしても、傷つけられたと感じて、怒る。権利なんて言っ人、考えの違う人間は排除される。



良い職場もあるだろうが、そこで雇ってもらえる人たちだけが、適切な待遇を受けられるということだ。困るのは、そうではない職場があるということだ。

障害のある人の生活を手伝うヘルパーの仕事を始め、だいぶ楽になった。傷つくことはある。でも、一対一で相手と信頼関係を築ける。利用者さんの辛さも見え、大変なのはお互いさまだという気持ちになる。もし関係が悪くなっても、別の日に修復できることもある。他人の生活を補助する仕事では、利用者さんのイメージしている成果がわからないことが多い。どうしても「違う」と否定される場面が多くなる。だが、気軽に否定してもらえないことは、とても重要。利用者さん自身の生活なのに、サポートする人に遠慮して、妥協を重ねていたら行き詰ってしまうから。

わかっていても、否定されることが何年も積もっていくと、処理できなくなる。眠ろうとすると、その日あった「否定されたこと」が思い出されて眠れない。少し離れる期間がほしいと思った。利用者さんたちには好感を持っているし、また戻りたいなと思っている。その人のペースで、離れる期間を挟みながら関わるといふ仕事の仕方があってもよいと思う。

### ちよとより道①

